

2026 年 8 月 4 日

各 位

会社名 株式会社アスタリスク
代表者名 代表取締役執行役員社長 鈴木 規之
(コード番号：6522 東証グロース)
問合せ先 取締役執行役員 管理統括室長 太田 尚友
ir@asx.co.jp

**RFID ソリューション販売開始。次世代 RFID ソリューション『AsReader BOX-Type』、
「coca」旗艦店への導入のお知らせ**
～全国 100 店舗以上を展開する adapt retailing で店舗 DX を実証、中長期の業績拡大へ本格着手～

株式会社アスタリスク（本社：大阪市、代表取締役執行役員社長：鈴木 規之）は、次世代 RFID ソリューションの本格的な販売・事業化フェーズへ移行したことをお知らせいたします。本フェーズは、量産展開および収益化へ向けた最重要ステップであり、RFID 事業を当社の新たな成長ドライバーへと昇華させる取り組みとなります。

この度、「大人のためのファストファッション」をコンセプトに人気アパレルブランド「coca」等を展開する株式会社 adapt retailing（本社：東京都港区、代表取締役：金親 卓生、以下「adapt retailing」）の旗艦店である「coca ダイバーシティ東京プラザ店」において、当社の据置型 RFID リーダー『AsReader BOX-Type』が採用・導入されましたのでお知らせいたします。



※イメージ

■ 導入の背景と狙い：拡大する店舗網に対応する圧倒的な業務効率化

adapt retailing は、EC および全国 100 店舗を超える実店舗にて急速な成長を続けている気鋭のアパレル企業です。急速な店舗ネットワーク拡大に伴い、レジ混雑の緩和や入荷検品・棚卸しといった店舗オペレーションの圧倒的な効率化を目指し、自社商品タグへの RFID 導入・活用を積極的に推進されています。

多様な店舗レイアウトやレジカウンター設計にフレキシブルに対応できる設置の自由度、および店舗での安定運用を支える高い技術力が評価され、当社の『AsReader BOX-Type』が採用されました。本実証を通じて、POS 業務における商品読取の高速化と、店舗オペレーション全体の高度化を検証・確立いたします。

■ 製品の競争優位性と導入のメリット

1. セパレート構造による自由度の高い設置と店舗デザインの維持
本体モジュールとアンテナ部が分離した独自構造により、本体をカウンター内部等の見えない場所へスマートに格納。天板下に最適なアンテナを配置することで、店舗の洗練された雰囲気を損なうことなく、商品を「かざす・置くだけ」で一括読み取りが完了する「ハンズフリー会計」を実現します。
2. 店舗 DX の強力な推進（高付加価値業務へのシフト）
精度の高い RFID 一括読み取りにより会計待ち時間を大幅に短縮。さらに、入荷検品や棚卸業務のスピードアップを実現し、店舗スタッフが接客や VMD（ビジュアルマーチャンダイジング）などの付加価値の高い業務に集中できる DX 環境を構築します。
3. 高いカスタマイズ性とセルフレジへの汎用性
タブレット POS 連携や有線接続など、多角的な店舗形態やレジ環境に柔軟に対応。将来的なシステム拡張やセルフレジ運用へのスムーズな移行を可能にします。

■ 本プロジェクトにおける検証テーマ

本件では、以下の 5 点を中心に多面的な効果検証を行います。

- ・ レジ待ち時間の極小化
- ・ 混雑緩和による顧客満足度・購買体験の向上
- ・ 店舗スタッフの作業負荷軽減および人件費の最適化
- ・ 将来的なセルフレジ運用への展開
- ・ RFID を活用した新たな店舗体験（次世代店舗モデル）の創出

■ トップコメント

株式会社 adapt retailing 代表取締役 金親 卓生 氏

「当社は、お客様により快適なお買い物体験をご提供するため、常に新しいテクノロジーへの挑戦を続けております。今回の実証では、RFID 技術による店舗オペレーションの可能性を検証し、お客様の利便性向上とスタッフの働きやすい環境づくりの両立を目指します。アスタリスク様との強いパートナーシップを通じて、今後の新しい店舗体験の創造と全国展開につなげてまいりたいと考えております。」

株式会社アスタリスク 代表取締役執行役員社長 鈴木 規之

「人手不足が深刻化する小売業界において、RFID を活用したレジ業務の効率化は、これからの店舗経営に欠かせないテクノロジーです。店舗スタッフの負担軽減を実現するだけでなく、お客様の会計待ちに対するストレスを大きく軽減し、よりスムーズで心地よい購買体験を提供することは、サービス品質の向上に直結いたします。

幅広い層から絶大な支持を集める coca ブランドの旗艦店舗で実証を行えることは、当社の RFID 技術がもたらす店舗 DX の可能性を具体的に示す大きな一歩であると確信しております。

当社は今回の実証を必ず成功へと導き、将来的には当社のコア技術である『RFID Reading TUB』をはじめとする、より高度で知的なセルフレジや店舗運営システムの実現を通じて、小売業界の未来に大きく貢献してまいります。」

■ 今後の業績への見通し

本件による 2026 年 8 月期の連結業績に与える影響については現在精査中ですが、全国 100 店舗以上を展開する adapt retailing での実証・運用定着を足がかりに、量産展開および他アパレル・流通大手企業への横展開を推進してまいります。

これにより、中長期的な売上成長および企業価値のさらなる向上に貢献するものと考えております。なお、今後、公表すべき重要な進捗が生じた場合には、速やかに投資家の皆様へ開示いたします。

以上